

7月22日の日食情報

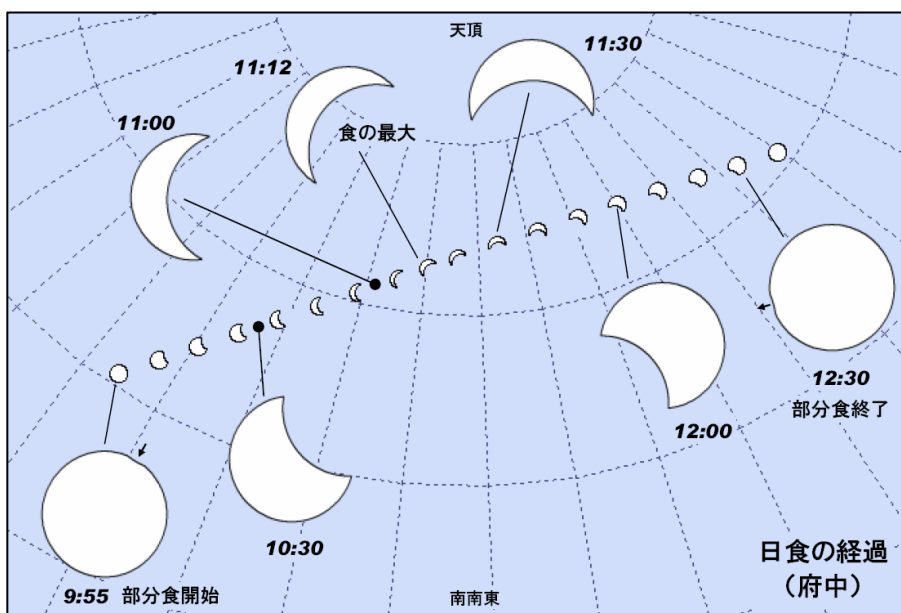
Vol.5 ～ 府中での部分日食のようす ～

7月22日には皆既日食が見られますが、トカラ列島や屋久島など、国内の一部の島に限られてしまいます。ここ府中をはじめ、その他の地域では、部分日食が見られることになります。

●府中での部分日食の様子

府中で太陽が欠け始めるのは、9時55分01秒です(注:国立天文台のウェブページで郷土の森博物館の位置を指定して計算した場合。府中市内全体では数秒程度の差がありますが、ほぼ同じ時刻です。以下同じ)。このときの太陽は、東南東の空にあり、地平線からの高度が60.8度と、見上げないといけないような空高くに輝いています。太陽が欠けてくるのは、天頂方向(つまり頭の真上方向)を上にするると右上側からとなります。

その後は、月がどんどんと太陽側に入り込み、日食が進行していきます。最も太陽が欠ける「食の最大」は、11時12分27秒です。このときの食分は75.2%で、つまり太陽の直径の約4分の3まで月が入り込み、太陽がかなり細く見える日食となるでしょう。位置は南南東方向の非常に高い空で、地平線からの高度は72.7度、つまり天頂(頭の真上)からわずか17.3度しか離れていません。ほぼ真上の空といって差し支えない位置です。

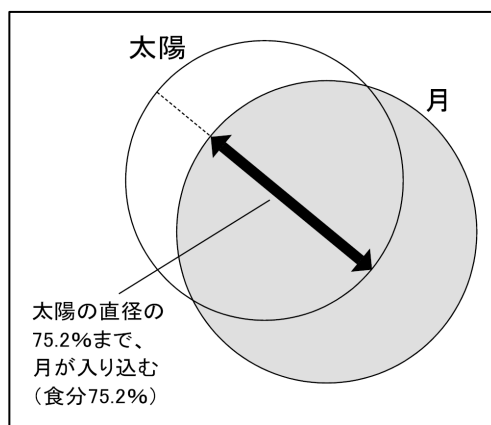


この後は、月が太陽から左側へと離れはじめ、再び丸い太陽へと戻っていきます。部分日食は、およそ2時間35分続き、12時29分56秒、月が太陽から完全に離れて日食が終了します。このときの太陽の位置は南南西で、やはり地平線から72.1度もある高い空で見えることになります。

●観察時の注意

部分日食は、太陽が欠けていると言っても太陽光を直接見ると目を痛めます。市販の日食メガネを使用して正しく減光(光を弱めること)するなど、安全な方法で観察してください(詳しい観察方法は、前々回、前回は参照のこと)。

また今回の日食は、空の非常に高いところに太陽が位置します。首が疲れないように気を付けたいですね。イスやサマーベッドなどを使って観察するのもよいかもしれません。しかし、市販の日食メガネなどを使用する場合でも、ずっと太陽を見続けることは目に良くありませんので、休憩をとりながら観察するよう気を付けましょう。さらに真夏の真昼で、気温が高くなり蒸し暑くなることが予想されます。観察の途中でもこまめに水分補給を行い、適当に日陰で休むなどして、日射病や熱射病にならないよう気を付けましょう。また紫外線が強い時期ですので、日焼け予防なども注意しましょう。



食の最大の時の太陽と月の関係 (府中)

郷土の森博物館では、当日に日食観望会を予定しています。よろしかったらぜひおいでください。